

商都慕情

— 今昔館の宝箱 —

大阪くらしの今昔館が所蔵する
美術品の中から大阪の景観や
年中行事、祭礼を描いた掛軸・
絵巻・屏風を展示し、古きよき
大阪の街の様子と暮らしぶりを
ご紹介します。

日時

2018年6月16日(土)～7月8日(日)

開館時間 10時～17時(入館は16時30分)

休館日 毎週火曜日

会場

大阪くらしの今昔館8階企画展示室



浪花天神橋図 菅 楯彦



商都慕情

— 今昔館の宝箱 —

日時 2018年6月16日(土)～7月8日(日)

開館時間 10時～17時(入館は16時30分)
休館日 毎週火曜日

会場 大阪くらしの今昔館8階企画展示室

入館料 企画展のみ 300円

常設展+企画展
一般 800円(団体700円)
高・大生 500円(団体400円)

※団体は20名以上
※年間パスポート、大阪周遊バス、キャンパスメンバーズで入場可。
※中学生以下、障がい者手帳等持参者(介護者1名を含む)、大阪市内在住の方は無料(要証明書提示)。

「天下の台所」と称された大阪には諸国の物産が集積し、商人は富み栄え、豊かな暮らしを背景に芸術・文化が開花しました。また、「水の都」とも称された大阪は市中に堀川が発達し、多くの橋がかけられました。三大橋と呼ばれた「天満橋」「天神橋」「難波橋」、町人が維持管理した町橋など多様な橋があり、魅力ある都市景観を作り出していました。

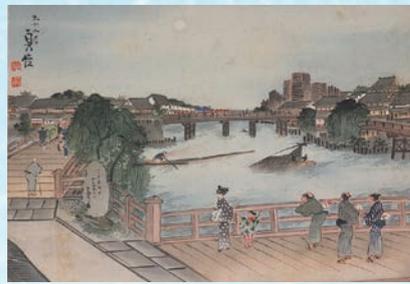
大阪くらしの今昔館が所蔵する美術品の中には、大阪の景観や、年中行事など、人々の暮らしぶりを描いた絵画が残されています。例えば、「浪花下村店繁栄之図(佐藤保大筆)」は幕末期の松屋(現在の大丸)の店構えと賑わいが、「浪花天神橋図(菅橋彦筆)」には天神橋の上で武家の子ども連れと、天神旗を持った行商人の家族などが行き交う様子などが描かれています。さらに花見や月見など季節の行楽、寺社への参拝、年中行事や祭礼など、古きよき大阪の魅力あふれる街の様子や暮らしぶりを掛軸・絵巻・屏風などの絵画作品を通してご覧くださいます。



「天下茶屋せさい屋(薬屋)」浪速勝景帖より 五井 金水



「正月 道頓堀初芝居」浪花風景十二月より 二代 貞信



「葉月 四ツ橋夕涼」浪花風景十二月より 二代 貞信



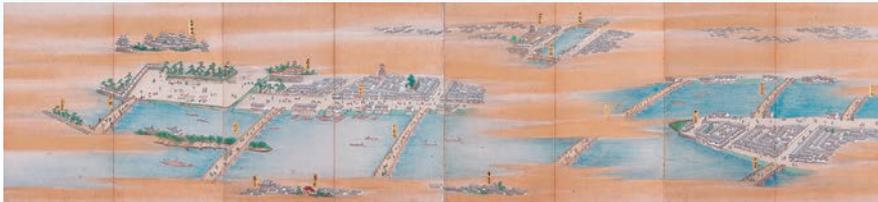
「阿弥陀池の植木市」年中行事画卷より 菅 橋彦



「天神祭」浪花月次図屏風より 作者不詳 個人蔵



浪花心齋橋街小倉屋旧観 菅 橋彦



よと川の図 (部分) 作者不詳

関連事業 ギャラリートーク



(参考)浪華名所独案内 大阪市立図書館デジタルアーカイブより

展示室で歩きながら、簡単な作品解説をします。江戸時代の観光地図をベースにしたワークシートも配布します。展覧会でどのように絵を見たらいいのかわからないという方も、お気軽にご参加ください。

日時：6月30日(土) 11:00から30分程度
会場：8F企画展示室内
参加費：無料(企画展の入場料が必要)
参加方法：チケットを購入の上、企画展示室入口にご集合ください。
解説：服部麻衣(学芸員・教育普及担当)



大阪くらしの今昔館

〒530-0041 大阪市北区天神橋6丁目4-20 住まい情報センタービル8階
Osaka Metro堺筋線・谷町線「天神橋筋六丁目」駅3番出口から直結
JR大阪環状線「天満」駅から北へ650m
TEL.06-6242-1170 FAX.06-6354-8601